

長谷堂八幡神社

- 1 鎮座地 山形市大字長谷堂 3492-4
- 2 御祭神 應神天皇
- 3 御祭 祈願祭 : 4月第3日曜日
例大祭 : 9月15日又はその前後の日曜日
感謝祭 : 11月23日(勤労感謝の日又はその前後の日曜日)
- 4 建築様式 本殿:銅板葺流造 幣殿:トタン葺切妻造 拝殿:銅板葺入母屋造
- 5 建築面積 23坪(本殿4坪 拝殿9坪 幣殿10坪)
- 6 境内面積 429坪



森の中にたたずむ八幡神社(鳥居:神明鳥居)



位置図



神社境内(境内林は市指定保存樹林)



社殿再建記念の石碑



社殿再建記念の俳額が拝殿に掲示されている

7 八幡神社の環境と最近のトピックス

ここは慶長五年（1600 年）の奥羽の関ヶ原の長谷堂合戦において難攻不落といわれた城山の北端部に位置する。小高い丘の上の社殿は鬱蒼とした森の中にある。この森の山裾はコナラ等の雑木林が取り巻き、境内にはモミ・スギ等の巨木が生い茂り、ほかにソメイヨシノの巨木も参道沿いに並ぶ。これらは下記の神社再建記念の後に植栽したとみられる。樹林の間からは山形市内の眺望がきき、霞城公園の森も真っすぐに見える。神域の森林は昭和 55 年に山形市保存樹林（林-53）に指定された。

この城山は山形市が公園用地として買収したものの、整備の進捗は緩慢だった。この間、平成 18～19 年の二年間で地元のボランティアが約 200 本のサクラ等を未立木地に植栽し、先鞭を切った。平成 21 年に NHK の大河ドラマ『天地人』の放映が決まってからは、公園整備が急速に進んだ。公園の周遊園路、山城としての遺跡地形の現しと説明板が設置された。平成 22 年に参道が石段から舗石敷き（一部階段）になった。平成 22～23 年にかけて城山には、長谷堂合戦以来最大の人出と語り草になっている。長谷堂合戦の人出は 2 万人と記録されるが、TV 放映の年には 7 万人もの集客があったといわれる。この時のお賽銭で懸案だった社殿に覆いかぶさる樹木の枝等を整理した。

8 八幡神社の来歴

八幡神社の来歴は、社殿左側に建つ石碑に以下のとおり刻まれている。

「康平五年（1058 年～1065 年）、将軍伊豫守源頼義の一子八幡太郎義家が奥州の乱（前九年の役）を悉く平定し、豊前の国伊佐八幡宮の分霊を勧請して城山に社殿を建立し戦捷を告げ奉った。のち本沢郷長谷堂村の鎮守となり、天正年間（1573 年）山形の太守最上出羽守源義光がこの地に築城し、譜代の臣を以って城主と為し城主は代々社殿を修理してきた。坂紀伊守光秀に至り元和年間（1615 年～1624 年）に廃城となって以来、村民がこれを維持してきた。明治維新には村社に列せられ、例祭は 9 月 15 日とし村民の崇敬を集めてきた。また、城山は若干名の八幡講の結いにより浅からざる信心が保たれてきた。

明治三十二年十二月、暴風倒木のため社殿が毀損したので、講をもって社殿再建の計画をたて、寄財募集に尽力したので忽ち資金が集まり、明治三十九年十二月の本社が完成し遷宮式を行い、同四十四年二月には、神饌幣帛料供御神社に列せられた。

ここに本社の再建を略記し、以って後世に伝えんとするものである。

明治四十四年九月 在荒砥 勲七等

坂 乾一郎 書」

（原文は漢文：訓読は「白鷹古文書研究会」による）

この記録によれば当神社は本年で創建 955 年を数える。明治 44 年に毀損した社殿を再建し、記念碑を建立しただけでなく、その後「城山八幡神社再建記念発句集」の額を拝殿に掲示したものと考えられる。幅約 2.4m×高さ約 1.0m の板面に地元長谷堂だけでなく、近在の谷柏、門伝、二位田、桜田、陣場、鮎洗、山形、金瓶、上ノ山、山ノ辺などかなり広範な地区から寄せられた 180 句余が記載されている。

その後、昭和 31 年に本沢村は山形市に併合され、それと同時にこの八幡神社は村社から長谷堂の内町に管理が引き継がれて現在に至っている。内町は長谷堂城跡の東北側に古くからある 55 戸余の集落である。内町住民は全員八幡神社の氏子と申し合わせ、住民を守る鎮守の神として崇拝している。

（平成 28 年度長谷堂八幡神社氏子総代 枝松吉男記）

